

SNW対話イン九工大 2013 事後アンケート結果 (平成 25 年 11 月 14 日開催)

纏め：廣 陽二

1. アンケート回答者 31 名

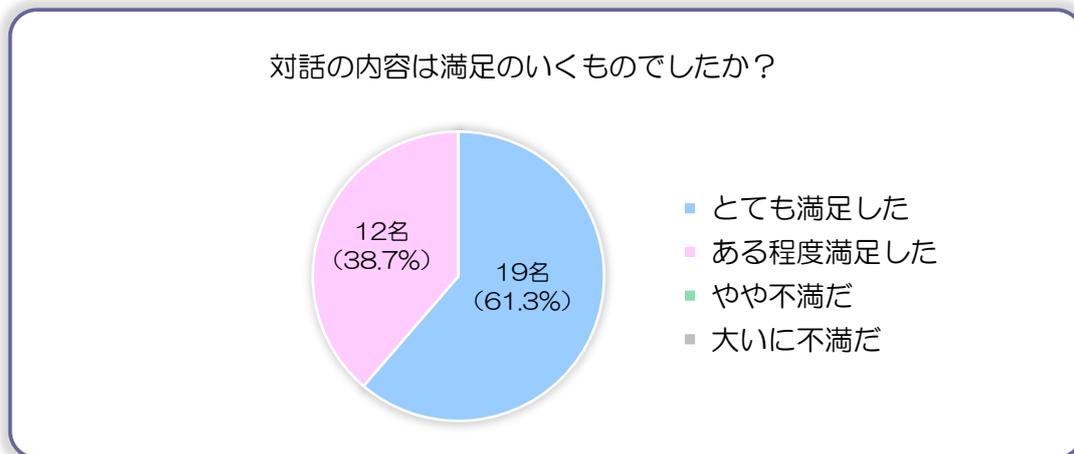
(内訳)	• M1	29名
	• M2	1名
	• D3	1名

2. 対話会について

(1) 対話の内容は満足 of いくものでしたか? その理由は?

とても満足した	19名 (61.3%)
ある程度満足した	12名 (38.7%)
やや不満だ	0名 (0.0%)
大いに不満だ	0名 (0.0%)

「とても満足した」と「ある程度満足した」を加えると、100%になり、「やや不満だ」、「大いに不満だ」の回答はなかった。



<理由>

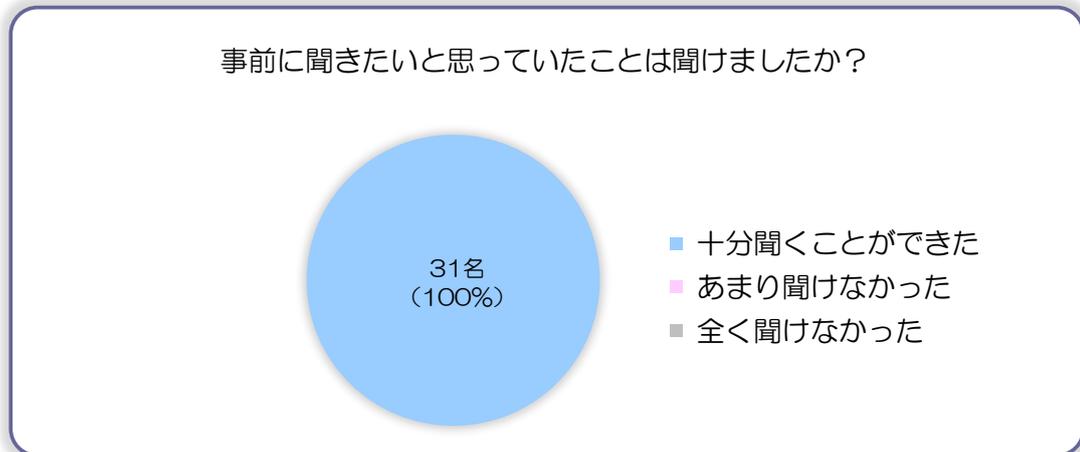
- とても興味深い話をたくさん聞けた。
- 多くのことを知ることができたし、意見の交換が行えた。
- 現在の日本のエネルギー事情を詳しく聞けたことと、原子力についての世界の動向を第一線で働いてきた方々に聞けたから。
- 原子力の将来は私たちの将来と深く関わっているから。
- 原子力について自分の考えていたものよりも、より深い所まで話を聞くことができたから。
- 電力の今後について聞くことができたことと、原子力の専門家の実状を把握できてよかったから。
- 長い間、原子力の分野で活躍されていた方々の、内容の濃い話を聞けたので。
- 原発についての疑問を解決できたから。

- メディアで報道されにくいような事実を知ることができた。
 - 原子力の始まりから現在までの話が聞けて満足した。
 - 原子力発電に関して専門的な話を聞けたので。
 - 日本のエネルギーの将来について、とても有意義な議論をすることができた。
 - 聞きたいことが聞けた。
 - 偉い人と直接対話ができる、原子力発電のメリットとデメリットがよく理解できた。
 - 自分が感心したのは、放射性廃棄物をどんな方法で処理するか、シニア達は詳しく紹介してくれたので満足できた。
 - 原発の現状と必要性についてよく理解できたから。
 - 日本のエネルギーの現状や有識者達の意見を詳しく聞くことができたため。
- 廃棄物処理問題はこれから長い期間をかけて行っていくもので、方針を知ることができたが、まだ分からないことが残った。
- 放射線、原子力の専門家の方からニュース等のメディアからは知り得ない情報を聞くことができた、時間が少し短かった。
 - こちらの準備不足で掘り下げた会話がうまくできなかった。

(2) 事前に聞きたいと思っていたことは聞けましたか？

十分聞くことができた	31名 (100.0%)
あまり聞けなかった	0名 (0.0%)
全く聞けなかった	0名 (0.0%)

全員が「十分聞くことができた」と答えている。



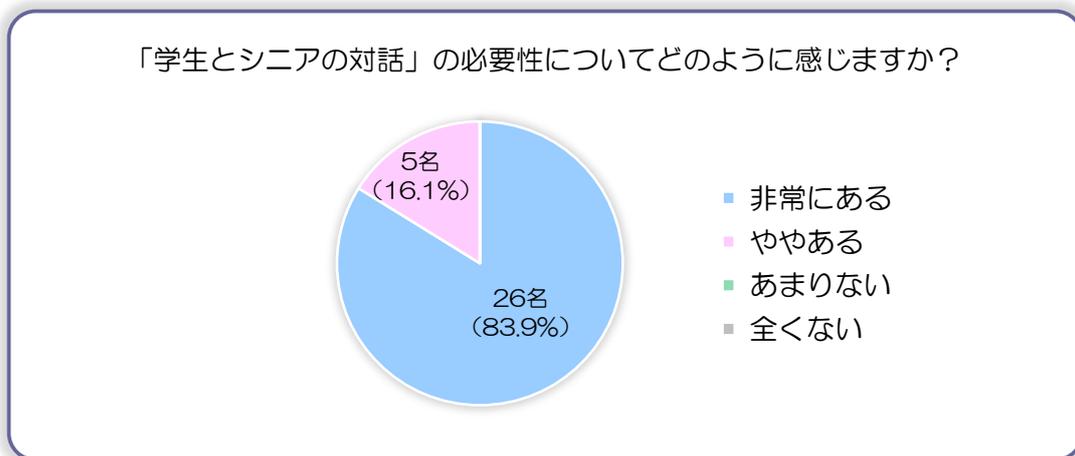
(3) 今回の対話で得られたことは何ですか？

- 原子力発電に対する考えが変わった。
 - ・ 放射性廃棄物処理・処分について、日本がどのように考え動こうとしているのか、安全面について知ることができた。
 - ・ 今回の対話に参加することで、「原子力はやはり日本には必要」という確証を得られた。
 - ・ 具体的な処分方法を知ることができた。
 - ・ マスコミを信じてはいけない、知識を得ることが大事。
 - ・ 技術者としての知識と共に、世間の流れや説明する責任の大切さを学ぶことができた。
 - ・ 原子力の今後の進展への見解、OBとの「対話」という貴重な体験。
 - ・ 将来のエネルギー問題を今からどうにかしていかないといけないという危機感を持った。
 - ・ 原子力について正しい情報を得て、客観的に判断することが重要。
 - ・ 原子力再稼働の必要性に気付いた。
 - ・ 原子力発電の危険性と安全性の知識。
 - ・ 原子力に対する正しい意見を持ち、メディアに流されないような客観的な視点で判断することが何より大事なのだと感じた。
 - ・ 原発について詳しく理解した。
 - ・ マスコミが流したニュースをちゃんと自分の意識を持って考える、ただ信じるわけではない。
 - ・ 2030年代原発ゼロは無理なことが分った。
 - ・ マスコミ等では報道されない原発の全体像を把握することができた。
 - ・ 原子力の現状を知ることができた、私たちの得る情報はマスコミを通すことが多く、原子力のありのままの危険性、問題点を知ることができた。
 - ・ 自らで情報を判断する正当性・公平性の必要性。
 - ・ 原発に携わる方は今は大変なんだなと思った。

(4)「学生とシニアの対話」の必要性についてどのように感じますか？その理由は？

非常にある	26名 (83.9%)
ややある	5名 (16.1%)
あまりない	0名 (0.0%)
全くない	0名 (0.0%)

「非常にある」と「ややある」を加えると100%になり、「あまりない」、「全くない」の回答はなかった。



<理由>

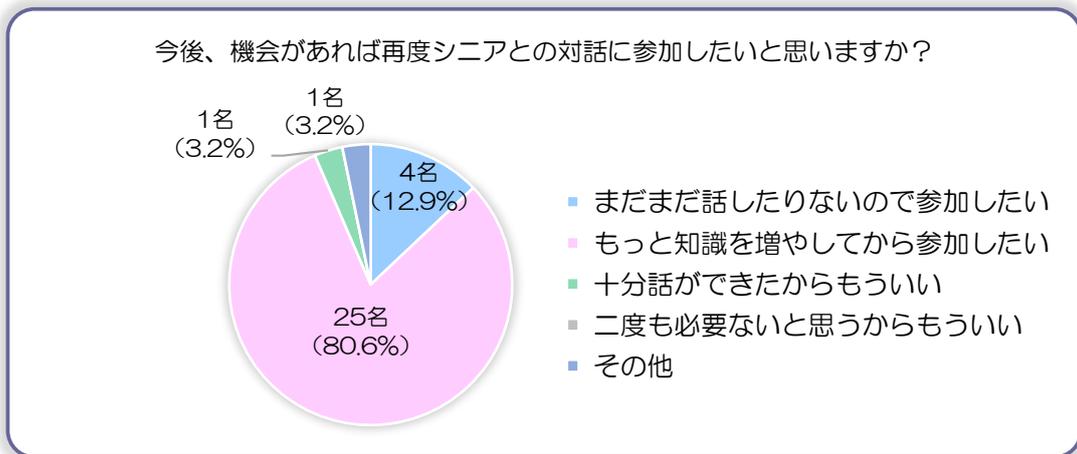
- シニアの人としか話せないことがたくさんあるから。
 - ・ 長いこと現場にいた方の生の話を、これから進路を決める学生は聞くべきと思う。
 - ・ その道で長くやってきた方々の話を聞ける機会はそんなになく、内容も充実しているから。
 - ・ シニアの方々と対話することで、より多くの物事を知ることができ、より多くの物事への考え方のアプローチの方法に気付かせてもらえるから。
 - ・ 専門分野に長く携わってこられた方の話を聞くことで、その分野の知識だけでなく、取り組み方やこれまでの歩みも知ることができるから。
 - ・ 今回のような機会はめったにないから。
 - ・ 世代の異なる方々の考え、長年技術者として積み重ねてきた経験に基づく話を聞くことができるため。
 - ・ 現場を経験されてきた方の話を聞くことで、学生だけでは考えつかないような考えを発見できるから。
 - ・ 私たちが原子力のことを把握することで、原子力発電の正確な評価ができるようになるから。
 - ・ 普段の生活では絶対に聞けないような詳しい話が聞けるので。
 - ・ 知識人と議論する場が必要。
 - ・ 考えの幅が広がる良い機会となった。
 - ・ 組織が内側で抱えているあまり公にされない情報を知ることができるかもしれないから。
 - ・ 長年携わってきた方と話すことで、長期的な展望を聞くことができるため。
 - ・ マスメディアとは違う情報が得られるため。
 - ・ 他の学生や国民に対して、正しい知識を身につけてもらうためにも必要。

- 最初は原発は別のエネルギーに替わることが出来ると思ったが、やはり原発に替わるものはないと思った。
- 専門家と対話のチャンスは珍しいから。
- エネルギーについてよく理解することはいいと思うから。
- 専門的な話はもちろん、様々な経験談を聞くことができる。
- シニアの考え方に魅力を感じて、勉強の意欲がわいてくる。
- 分からないことがあれば、シニアから詳しく説明してもらえるのがよかった。
- 道を極めた方の意見は説得力がある、また、その方に対して、ただ聞くだけでなく主張する力を身につけなければならない。
- シニアの方と話すことで技術者としての話し方や考え方を学ぶことができた。
- 専門家の方と対話することで正しい知識を得ることができるため。
- 現状のエネルギー問題に対しての技術者の大先輩である人達の意見を聞けるのは非常に有意義だと感じたため。

(5) 今後、機会があれば再度シニアとの対話に参加したいと思いますか？

まだまだ話したりないので参加したい	4名 (16.1%)
もっと知識を増やしてから参加したい	25名 (80.6%)
十分話ができたらもういい	1名 (3.2%)
二度も必要ないと思うからもういい	0名 (0.0%)
その他	1名 (3.2%)

「もっと知識を増やしてから参加したい」が80.6%、「まだまだ話したりないので参加したい」が12.9%、「十分話ができたらもういい」が3.2%であった。「その他」の1名は“忙しくない時期であれば参加したい”と回答している。

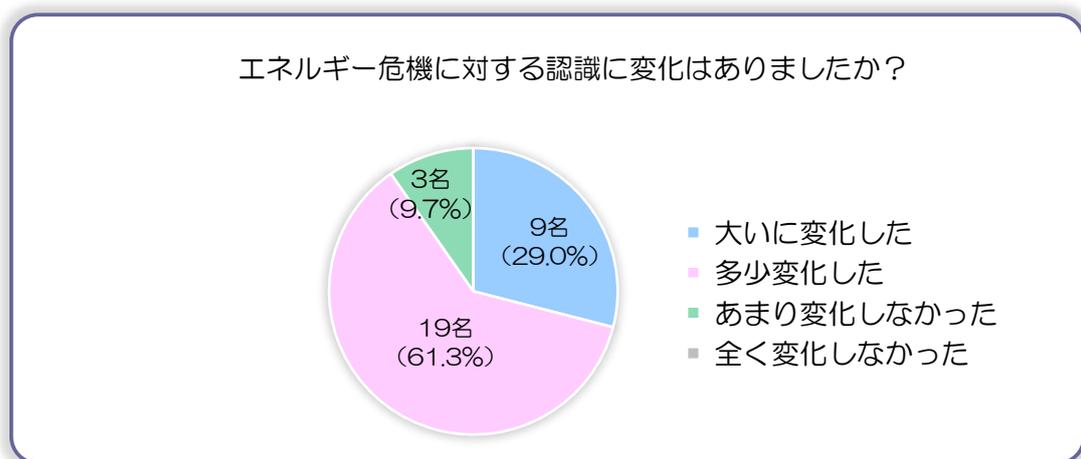


(6) エネルギー危機に対する認識に変化はありましたか？その理由は？

大いに变化した	9名 (29.0%)
多少变化した	19名 (61.3%)
あまり变化しなかった	3名 (9.7%)
全く变化しなかった	0名 (0.0%)

約9割が「大いに变化した」又は「多少变化した」と回答している。

また、「あまり变化しなかった」の3名の回答理由は、“原発は必要だと思っていたから”、“シニアから得られたことは自分の考え方に一致する”、“あまり自分の認識と方向性の違うものではなかったため”であった。



<理由>

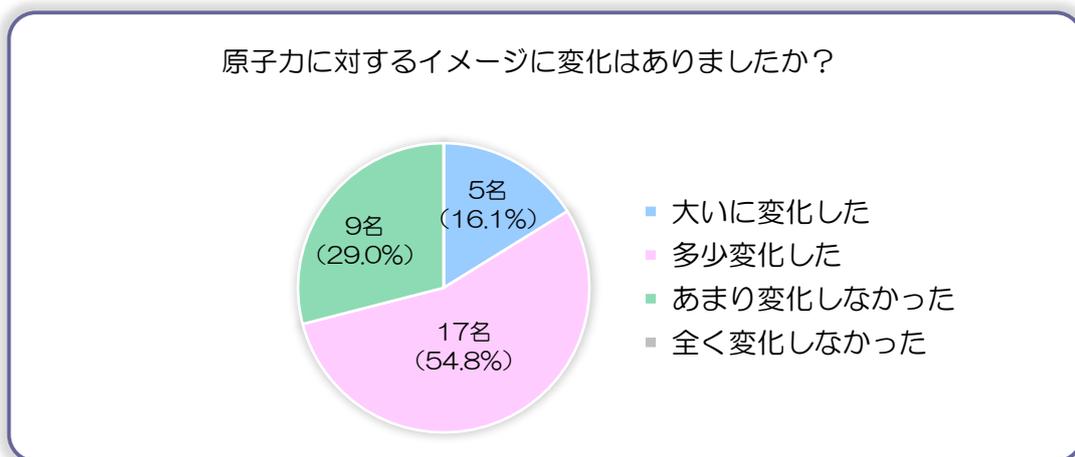
- 原子力について見直されていることは知っていたが、今回の対話でより考えさせられた。
 - ・ エネルギーが夏場等足りていないことは知っていたが、原子力発電を止めている分を補うために化石燃料を莫大に輸入していることは知らなかった。余分なお金を使うより、まず自国のエネルギーは自国でまかなえるようにすべきだと思ったから。
 - ・ 様々な電力供給方法が選択されていく中で、それぞれのメリット、デメリットをよく理解する必要があると感じた。
 - ・ 発生してしまった問題に向き合うことで解決策を見出す必要があると感じた。
 - ・ ニュース等で危機が取り上げられていても、どこかで自分とは無関係だと思っていたが、話を聞いて、今のうちから真剣に考え取り組む必要があると感じた。
 - ・ 思っていた以上に現状が厳しいことが分ったため。
 - ・ 日本のエネルギー構成に対する原子力エネルギーの重さに改めて気付かされた。
 - ・ 代替の発電システムの開発の難しさを知ったため。
 - ・ 今までは国民一人一人の努力によって、エネルギー危機はどうにかなるものだと思っていたが、国の経済レベルでみると、それだけでは不十分なのだった。
 - ・ 原発は他のエネルギーに代えがたい圧倒的な存在。
 - ・ 原発を動かさないために、4兆円という額が使われていることを知ったから。
 - ・ 原発は必要だと思っていたから。
 - ・ シニアから得られたことは自分の考え方に一致する。
 - ・ あまり自分の認識と方向性の違うものではなかったため。

(7) 原子力に対するイメージに変化はありましたか？その理由は？

大いに变化した	5名 (16.1%)
多少变化した	17名 (54.8%)
あまり变化しなかった	9名 (29.0%)
全く变化しなかった	0名 (0.0%)

「大いに变化した」と「多少变化した」を加えると7割を超える。

「あまり变化しなかった」と回答した9名のうち、4名は“危険性については、認識していたこととあまり変わらなかったから”と同様の意見、1名は“原子力を支持している、原発ゼロは無理だと思う”、1名は“本当かどうかわからない”、3名は空欄であった。



<理由>

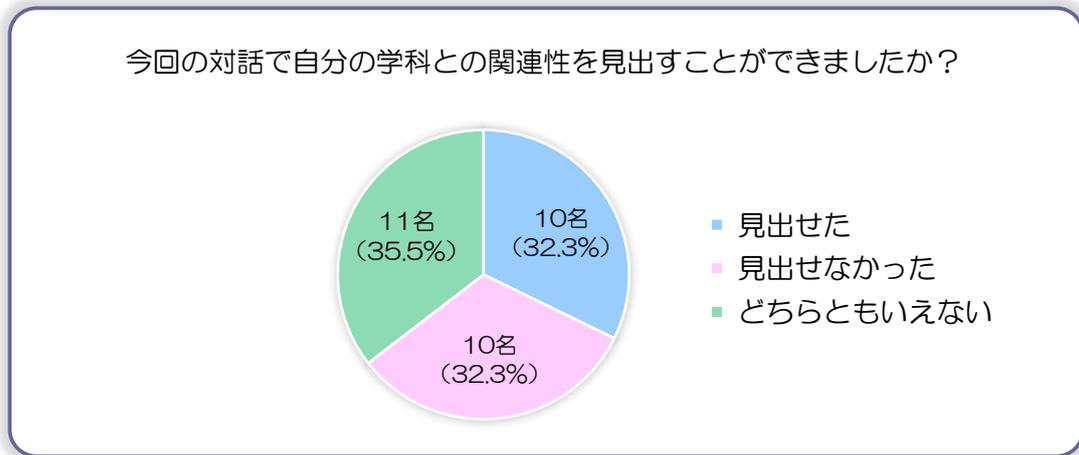
- 原子力が発展途上な技術であるということを知らなかった。発展途上ならば失敗も多々あると考えられるから、失敗に挫けずに歩む必要があると思うから。
- 電力需給の現状と今後、またリスク等をよく理解した上での選択が必要だと感じた。
- 原子力稼働の重要性を知ることができたから。
- 原子力発電所の、より厳しい安全評価基準を聞くことができたから。
- 原子力に対して賛成・反対の二極論で論じるのではなく、客観的な判断をすることが大事だと感じた。
- 再生エネルギーは不安定だが、原子力は低コストで安定である。
- 福島のような事故がない限り安全であるから。
- 以前から原発ゼロにはならないと思っている、今回は原発の必要性についてよく理解できた。
- 原子力を支持している、原発ゼロは無理だと思う。
- 原発は他のエネルギーに代えがたい圧倒的な存在。
- マスコミの報道では出てこない情報を知ることができたから。
- マスコミを通さない、ありのままの現状を知ることができたため。
- 原子力は想像したような危険なものではない、もっと安全策を考えれば原子力を安全に利用することができる。

- マスコミは「原子力に携わる人はこんなにもずさんだ」とひたすら流していたが、今回お会いした人はそうでもなかった。
 - 原発ゼロを訴えている人もいるが、果たしてそれは可能なのかと思えたから。
 - 心のどこかで原子力は危険なものだと思っていたが、それでもこれからのエネルギー供給に必要なもので、危険性は技術で限りなくゼロにしなければならないと思うようになった。
 - 想定外もかなり考慮して作られていることを知ったため。
-
- 知らない情報を教えてもらったが、本当かどうか分らなかった。
 - 危険性については、認識していたこととあまり変わらなかったから。

(8) 今回の対話で自分の学科との関連性を見出すことができましたか？その理由は？

見出せた	10名 (32.3%)
見出せなかった	10名 (32.3%)
どちらともいえない	11名 (35.5%)

「見出せた」及び「見出せなかった」の回答者が32.3%、「どちらともいえない」の回答者が35.5%であった。



<理由>

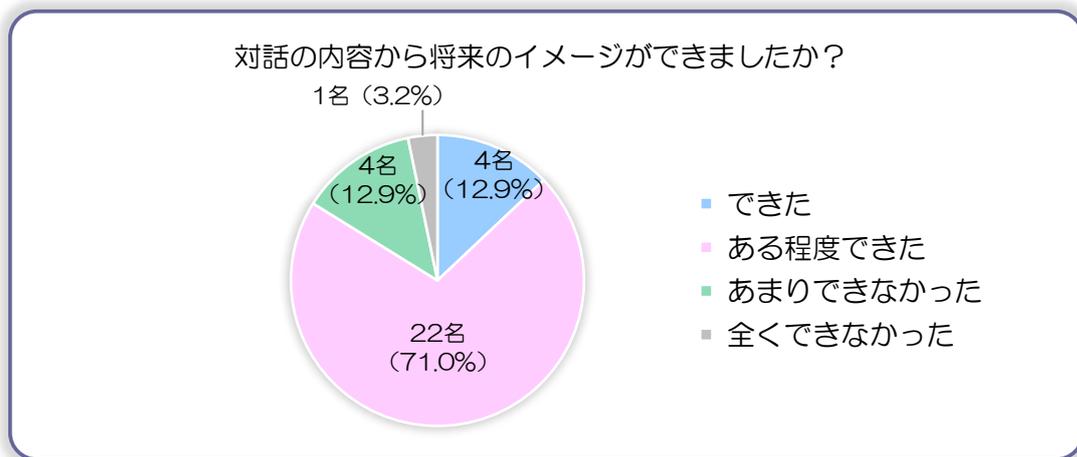
- 話を聞いて機械的な要素もあると感じた。
 - 機械を専攻しているが、原子力発電については発電所で用いられる冷却器やプールの構造等で仕事ができると思われる。
 - エネルギー問題と自分の研究が近いものであったため。
 - 原子力に関わる技術はあらゆる分野の集大成だと学んだため。
 - 安全設計におけるマージン。
 - 原子物理学だけでなく、流体工学や熱力学、材料力学等も関わっていることを知った。
 - 設計等の面において。
 - 直接、機械との関係というよりは、工学全体として様々な要因があると感じたから。
 - タービン等は関連性を見出せた。
 - 直接の関連はないが、自分の専門分野を深く理解することの重要性を学ぶことができたため。
- 対話の内容と研究があまり合致していなかったから。
 - マスコミの偏った報道についての話が主だったため。
 - 話していて分野の壁を感じた。
 - 制御工学を専門としており、原子力プラントとして関連するということは分るが、実際のどの程度まで関連しているのか、具体的なところが見えなかったため。
 - 学科との関連性を感じられなかった。

(9) 対話の内容から将来のイメージができましたか？その理由は？

できた	4名 (12.9%)
ある程度できた	22名 (71.0%)
あまりできなかった	4名 (12.9%)
全くできなかった	1名 (3.2%)

「できた」と「ある程度できた」を加えると8割を超える。

「全くできなかった」の1名は“分類が違う”と回答している。



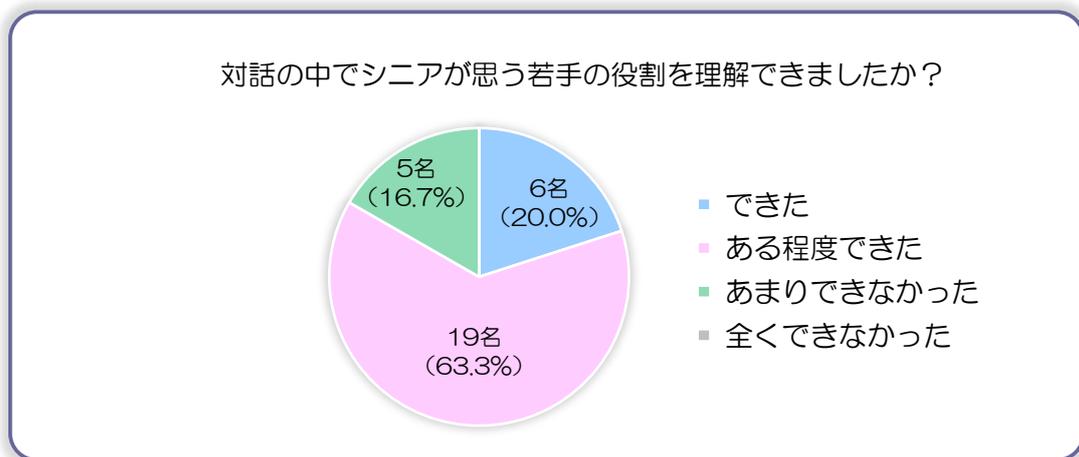
<理由>

- 原発がなくなったら経済的に危険だということが分った。
 - ・ 今考えられていることが実現することで、どのように日本が変わっていくのかが何となく分ったから。
 - ・ 現状のエネルギー事情では本国はジリ貧になる可能性が多いと思えるから。他国に頼るのではなく、自国のみで完結するエネルギーが必要と考えられたから。
 - ・ 対話の中でフランスの話があがり、日本もそういう政策をとるだろうと考えるので。
 - ・ 原子力と共存する必要がある。
 - ・ エネルギー危機が思っていたよりも一層深刻だということを感じた。
 - ・ 安全と安心を両立しないといけない。
 - ・ 近い将来、原発ゼロにはならない。
 - ・ ゼロシナリオならば、将来、再生可能エネルギー35%、水力発電65%の構成としているから、将来のイメージができた。
 - ・ 自分の将来ではなく、日本のエネルギー事情の将来はイメージがついた。理由は原子力の現状、廃棄物の現状を知ることができたため。
 - ・ 原子力は必要なエネルギー。
- 国と市民、人と人との問題で広く関心・知識の共有を進めることが大切だと感じた。
 - ・ 原子力稼働は、イメージできるほど簡単な問題ではないから。
 - ・ 関連性があまりなかったため。

(10) 対話の中でシニアが思う若手の役割を理解できましたか？またその理由は？

できた	6名 (20.0%)
ある程度できた	19名 (63.3%)
あまりできなかった	5名 (16.7%)
全くできなかった	0名 (0%)

「できた」又は「ある程度できた」を加えると、8割を超える。
また、「全くできなかった」の回答者はいなかった。



<理由>

- ・ これからは自分たちがシニアの思いを受け継がないといけない。
 - ・ 今後の日本のエネルギーについて変革を行なうのが若手の役割と理解した。今後の日本を変えて動かしていくのは我々若手なのだから。
 - ・ 知識は浅いが、自分の意見や考えをしっかり持つことが大事だと感じたから。
 - ・ シニアの方が、将来原子力とうまく付き合っ欲しいと思っていることが分った。
 - ・ 正しい情報を選ぶことが大切だと分ったため。
 - ・ これからを担っていく私たちがメディアの情報だけでなく、本当の数字を考え、行動していくことが重要であると感じた。
 - ・ 原子力だけでなく、様々な問題に対して議論し、意見を述べるができるエンジニアになりたいと思った。
 - ・ ただ聞き役に回るのではなく、自ら主張することが大事。
 - ・ 技術的観点から、原発の真実を教わる機会は大切だと思ったから。
 - ・ 若手が日本の将来を支えるので、若手がかもっと理論的にものを考える力を身につけてほしい。
- ・ 若手にはこれからどうあってほしいという議論がなかったため。
 - ・ そのような話はなかった。

(11)自分が思っていた若手の役割とシニアの考えは違いましたか？どのような違いがありましたか？また、シニアの考えを聞くことで、自分の考えに変化はありましたか？できるだけ詳しくお答えください。

- ・ 原発が無くなった時のリスクが分った。
 - ・ 専門でやってきた方の話には説得力があって、自分の考えが浅いと感じた。
 - ・ 今後をしっかりと見据え、未来を見据えて行動していこうと考えることができた。
 - ・ 違いはあまりなかった。マスコミに惑わされず、知識を身につけてから物事を判断したい。
 - ・ 自分の知識が少ないことを痛感すると共に、自分の意見を大切にして専門的な知識や幅広い分野のことを吸収していこうと思った。
 - ・ シニアの方の考えを聞いて新しい発見ができ、もう一度若手の役割を考え直してみようと感じた。
 - ・ 情報源（新聞・インターネット）の違いによって、持っている情報と価値観が違っていた。何も知らずに原発に反対していた人達を対談前は嫌っていたが、マスコミの倫理規定により、テレビでは原発に賛成する内容を報道できず、反対の人達ばかり取り上げられ、必然的に反対に回る人が増えたという問題の原因を知ることができた。
 - ・ やはり年齢を重ねている分、私たちが想像もできないような経験をされているので、その話は心から興味を持って聞くことができた。
 - ・ これからの時代を託されていると感じた。それを受けて大学の授業や研究がどのような場面で必要になるのかを考え、できるだけ多くのことを学んでいくことを決意した。
 - ・ 考えは同じだった。今の発電状況が続くと大変なことになると知った。
 - ・ シニアの方々が学生だった時代と、今では環境も世界の情勢も大きく変化しているが、その時代の問題を少しでも良くするためにも解決に向けて全力を尽くさなければいけないと感じた。
 - ・ シニアと考えは同じ。シニアの考えのように、原発ゼロは無理だと信じている。
 - ・ もともと「原発賛成」だったので、考えに変化はないが、シニアの方々の話を聞いて、「原発賛成」に説得力を持った。
 - ・ シニアの方の技術者としての考え方は非常に勉強になった。
 - ・ 若手の役割とシニアの考え方にあまり違いは感じなかった。しかし、シニアの方の自分の意見・主張を語る姿には憧れのようなものを抱いた。意見・主張を語るができるのは普段からいろいろなことを考えているからだと思う。

- ・ 特になし。

(12) 本企画を通して全体の感想・意見等があれば自由に書いてください。

- ・ シニアの方々と話すことでいろいろな話を聞いて楽しかった。
 - ・ とても有意義な時間でした、ありがとうございました。
 - ・ 一つの問題に関して意見のやり取りをする機会はあまりないのでよい経験になった。
 - ・ 本企画を通して日本のエネルギー事情、また原発がどのような立場に置かれているのか、世界の原発の事情を知ることができた。また、マスメディアの情報伝達の偏りの多さも知ることができた。今後、原子力関係の仕事に就きたいと考えているので、今回の対話を生かしていこうと考えている。
 - ・ 今回の企画を通して、原子力の知識が広がり、原子力に対する正確な評価ができるようになった。まだまだ、知識は浅いがマスコミだけの情報ではいけないと思った。
 - ・ 対話を通して一番強く感じたことは、シニアの方の熱意だった。この熱意を受け、私もこれからの日本、世界を技術者の立場からよくしていこうと考えた。
 - ・ 原子力発電は危険だが、科学はいつも危険とともに存在するので、安全性を除くと原子力は優秀なエネルギーだ。
 - ・ シニアの専門家と対話して、原子力に対していろいろ勉強になった。原子力発電所はゼロにならず、逆に原発の数は増えていくとのこと。やはりマスコミからの情報と違う。みんな原発が危ないと言ったが、世の中、絶対に安全なものはないので、客観的な判断が必要だと思う。
 - ・ とても良い企画だと思う、学生たちとシニアとが直接対話ができ、本当に助かった。
 - ・ 機会があれば、もう一度参加したい。
- ・ 原子力だけでなく、いろいろなテーマについてその専門的なシニアの方と対話したいと強く感じるようになった。
 - ・ 今回、学生もシニアもおそらく 99%くらいは「原発賛成」だったと思う。20%くらい「原発反対」の人がいてもよかったと思う。
 - ・ 原子力についての意見が凄く偏った集まりのように感じた。反対意見を持つ人が全くいなかったため、そちらの意見と具体的なプランを聞くことも必要だと感じた。